

令和8年度 日精看大阪府支部 看護研究発表会 論文採点基準（投稿者用）

論文項目	加点のポイント
論文表題	研究の内容を簡潔に表している、内容やキーワードと整合性がある
はじめに	研究の動機が明らかに述べてある 研究の必要性、動機を持った事柄についてどのような研究がなされることが必要か、この研究をすることは看護にとってどのような意義があるのかということについて、先行文献を用いながら述べてある 研究に必要な言葉の定義や説明が文献を用いて述べてある
研究目的	これまでの内容をふまえて、研究の目的が明確に述べてある
研究方法	研究目的を明らかにするために、科学的に適切と考えられる研究デザインの研究である
	研究目的を明らかにするために、科学的に適切と考えられる研究方法である
	研究目的を明らかにするために、科学的に適切と考えられる対象者である
	得られたデータについて、科学的に適切と考えられる分析方法が用いられている
	別の人も行えるように、対象、期間、データ収集の方法と分析の方法が明確に述べてある
	介入を行っている場合：研究目的に応じて適切と考えられる介入の方法が明確に述べてある
	用いている測定用具について必要な説明がなされている
	量的研究：信頼性と妥当性を保つ工夫がなされている
質的研究：真実性と妥当性を保つ工夫がなされている	
倫理的配慮	研究対象者への、研究についての十分な説明と自由意思による参加の保証がなされている。 とくに、患者・ケアサービス利用者対象の研究については書面での説明と同意がなされている。
	対象者に不利益や負担を生じないような研究内容である
	プライバシーの保護がなされている
	研究協力をいつでもやめられるよう配慮がなされている
	倫理委員会のある施設では倫理委員会の審査を受けて行われた研究である
研究結果	事実が正確に示されている
	研究方法に沿い、目的を明らかにするために必要な分析の結果が十分に示されている
	図表が適切に用いられるなどわかりやすく示されている
	量的研究：信頼性と妥当性が伝わる記載がされている
	質的研究：真実性と妥当性が伝わる記述がされている
考察	得られた結果に基づいた解釈を行っている
	事実と推論を区別して目的に沿った考察がなされている
	文献を適切に用いた考察がなされている
	他の研究結果との比較がなされて、一致や相違に関する解釈が適切になされている
	研究の結果が今後看護にどのように貢献するのか述べられている
	研究の限界、今後の課題が示されている
その他	文献の引用方法と記載が適切になされている。
	用語の使い方、専門用語が適切であり、必要な説明が適切になされている
	研究デザインや研究の必要に応じて、必要な書き方がなされている
	臨床ならではの独自性のある研究、精神科看護の発展に有用な可能性を高く感じさせる論文である

## キーワード参考例

S S T      アディクション      アドヴォカシー      いじめ      移送

インフォームドコンセント      介護      回想法      隔離      家族

合併症      管理      患者－看護者関係      危機介入      基本的信頼

虐待      救急体制      教育      近所づきあい      金銭管理

クリニカルパス      グループ療法      ケアマネジメント      幻覚妄想

口腔ケア      拘束      行動化      告知      拒薬      作業療法支援

自我      時間管理      事故防止      自殺      思春期外来      自傷行為

自傷他害      死生観      自尊感情      失禁      褥瘡      社会資源

社会復帰施設      住居プログラム支援      就労支援      情報開示      触法

自立支援      人格障害      睡眠      性      生活技術      生活リズム

清潔ケア      精神運動興奮      摂食障害      精神科ケアマネジメント

セルフケア      セルフヘルプ      代理行為      デイケア      電気痙攣療法

転倒予防      ナイトケア      寝たきり      ネットワーク作り      発達

引きこもり      服薬      不登校      保護室      訪問看護      母子関係

母子分離      ホスピタリズム      役割獲得      ユニットケア

リスクマネジメント      レクリエーション